



小学校中・高学年向け 年 組

311

2026年5月1日付・下野新聞17面



「農業かるた」の絵札になる写真のイメージ

かるたを通して 農業に親しみを

市貝町農業委員会 子ども向けに制作へ

未来の就農者増狙う

絵札で紹介する農家募集

【市貝】「かるた」遊びを通して町の農業を知ってもらおうと、町農業委員会は「農業かるた」の制作に乗り出す。若者の農業離れが進む中、子どもたちに農業の多様性や重要性、食への感謝の気持ちを育ませ、将来の就農者を増やす狙いだ。広く町民にかるたの内容を募り、町内の幼稚園や小中学校に配布する予定だ。

(近藤文則)

町産業振興課によると、町内の生産者は2005年頃から減り始め、25年現在で862人。農産物もトマトやアスパラガス、牛乳、米、麦、ソバなど多種だが、約44軒(25年)が耕作放棄地という。

同委員会は新規就農者を増やすのは子どもたちから農業に親しむことが重要と考え、世代を超えて楽しめる農業かるたに注目。50音に合わせ、絵札で紹介する生産者46人を募る。応募資格は町内の生産者か家族が生産者であることが条件。農業振興のため無報酬。農作物と生産者を入れた写真を絵札に、農業への思いなどをつづった読み札の2種類計92枚を制作する。例えば「か」では、畑を耕すトラクターの写真が絵札で、読み札は幼児も読めるよう平仮名書きで「かわいたつちに たねをまく じかまきのうほう」というイメージ。題材は農作物や地域性を考慮して決定する。申込期間は29日まで。来年4月に完成予定で、町内の幼稚園が4セット、小中学校に5セットずつ配布する。子どもたちに遊んでもらい、家族も含めて町の農業について考えるきっかけにしたい考えだ。

企画を担当した同委員会吉葉真由美さん(49)は「子

どもたちが遊びながら町の農業に関心を持って、将来の就農者につながる『かるた』になれば」と話している。町同委員会事務局02-85-68-1116。

設 問

【1】市貝町農業委員会では、どんな「ねらい」をもって、「農業かるた」を作ろうと考えたのですか？

子どもたちに農業の多様性や(①)、(②)の気持ちを育ませ、将来の(③)を増やすねらい。

【2】市貝町では多くの種類の農作物を作っていますが、約44軒が耕作放棄地だと言います。次のことをインターネットで検索して調べてみましょう。

①耕作放棄地とはどんな土地のことですか？

②耕作放棄地が多いと、どのような問題点があるのですか？

【3】農業かるたをつくってみよう!! 次の絵札に合うような「オリジナル読み札」を考えてみよう!!

(例)

<p>みずを じどうでまける さいせんたんの こちんさいばい</p>		
--	--	--